

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和 2年 1月 28日

公表: 令和 2年 月 日

事業所名

放課後等デイサービスかける

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	勉強や作業に集中できたり気持ちを落ち着かせる事ができる部屋があるので活用しています。	勉強部屋の使用法を統一し勉強する子・プレイルームを利用する子とメリハリをつけスタッフが居る場合は周りのスタッフに声を掛けるようにします。
	2	職員の配置数は適切である	0	4	スタッフの休みの希望を取り入れています。	場合によってはスタッフの人数が足りていないが、スタッフ皆の中で出勤を調整していきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	4	玄関以外の段差には、フロアマットを敷いています。	玄関・手洗い場・部屋の仕切りに段差があり車いすの利用者は特に注意します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		業務の役割・分担を再度確認し、目標設定・振り返りを定期的に行い、業務改善に繋がります。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0		アンケート実施後、保護者の意向をスタッフ間で共有し改善できるように意見を出し合い、その中で支援など統一します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		事業所の会報・ホームページに評価表の結果をお知らせします。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		第三者による外部評価を受け止め改善します。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0		子ども発達センター・地区の研修に積極的に参加します。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0		定期的にあセスメントを行い子どもと保護者のニーズを大切に放課後等デイサービス計画を作成します。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0		活動プログラムの立案担当を中心にスタッフと話し合い決定します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	一カ月のうちに同じ曜日に同じ活動を入れないようにしています。	季節にあった活動を取り入れます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	学校の長期休み課題(ポスター・習字)やプールなど活動に取り入れています。	長期休暇・平日・休日に行えることを考慮し、活動に取り入れ、工夫します。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0		個別活動・集団活動のどちらも理解し子どもの状況に合わせた支援計画を行います。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	2	お休み中の支援員にも分かり易くするため連絡用にホワイトボードを活用しています。	支援内容に漏れがないよう朝礼を行い、確認・連絡・報告します。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	お休み中の支援員にも分かり易くするため連絡用にホワイトボードを活用しています。	支援終了後必ず、支援の振り返りを行い良かった点や改善点を話し合います。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	連絡帳を誰でも、いつでも見られるように子ども別にファイルに綴っています。	連絡帳を使いどのようなことに取り組んだのか・気になったことなどを記入します。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1	2		スタッフ間で定期的にモニタリングを行います。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	1		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	学校の住所・電話番号・子どものクラス・担任名を一覧表を用いて把握しています。	学校の情報は先生に確認し、正確に把握します。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2		地域の子どもが集まる場所や情報を探し、積極的に参加します。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	0		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	0	日頃から子どもについて話し合える送迎の時間を大事にしています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	3		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0	契約時には説明する時間を設けて質問に答えるようにしています。	運営規定、支援内容、利用者負担等、保護者様に納得いただけるように説明します。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	苦情は管理者に報告することを徹底しています。	苦情に対してスタッフは対応を統一し、共有します。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	4		今後ホームページを活用し随時子どもの様子などお知らせします。
	35	個人情報に十分注意している	4		スタッフ一人一人が個人情報に留意して行動できるようにお互いに声掛けをしています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	3		緊急時のマニュアルをまとめ、保護者にお知らせします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	1		定期的に活動に避難訓練を取り入れます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	1		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	ヒヤリハットの書類はファイルに綴り何時でも誰でも閲覧できるようにし、情報を共有しています。	ヒヤリハットの作成は月に一度、一人、一枚作成し事業所内で再発防止に努めます。